

本能まちづくりニュース

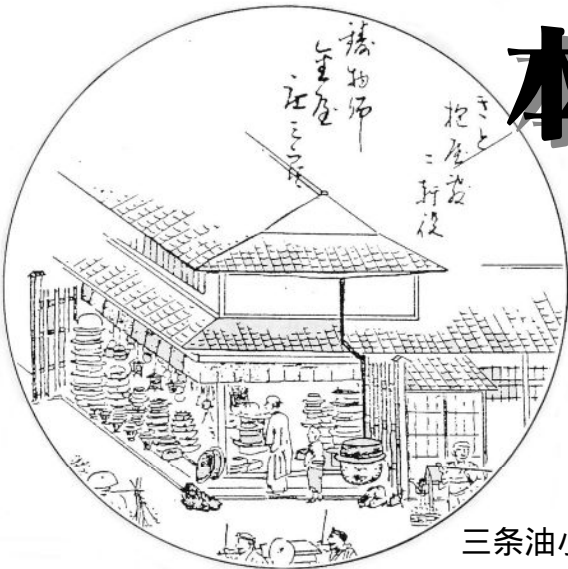
第53号 平成22年2月2日発行

本能まちづくり委員会
委員長 杉下浩教

E-mail: post@honnoh.net

URL http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。



三条油小路町絵図より鋳物師釜屋庄三郎方

親子で染め隊 ～下絵、糊置き、そして染めへ～

まちづくり委員会主催、高倉小学校スマイル 21 プラン委員会と立命館大学乾ゼミの協力による「親子で染め隊」の第3、4回ワークショップ及び第2回欠席者補講が行われました。第2回補講は、新型インフルエンザによる学級閉鎖のため欠席されていた親子対象で、10月17日に高倉小学校で、第3回は12月5日に本能自治会館で、第4回は12月12日に印染工房土山さんにて行われました。

第3回では、第2回に各自が描いた下書きを50cm×40cmの布へ写す「下絵」、そしてその下絵に染め上がりを白く仕上げる部分を作るための「糊置き」をしました。この日集まった児童は25名、保護者、先生等大人18名で、班に分かれて作業しました。もう3度目ということもあり、子どもたちは作業開始の合図があったとたんに一斉に下絵に取り掛かりました。まちづくり委員の松見豊和氏がわざわざ草津まで行って本物の「青花※〔アオバナ〕」を調達して下さり、参加した親子は、実際に友禅染の職人さんの使う青花を使用して下絵を施しました。

今回の道具は普通の絵具や色鉛筆ではなく、初めて扱う青花です。青花は本来、絵皿に1cm角の青花紙を貼り少しずつ水で戻していくのですが、子どもたちは繊細な作業なんてお構いなし。色の濃さもまちまちに、生地いっぱいのにじんだ大胆な下絵が完成していききました。

そしてこの日は盛りだくさん！次は「糊置き」です。模様糊置きの福本義孝さんに指導していただき、仕上がりを想像しながら糊を置いていきました。握力と集中力が重要となる

この作業は子どもたちには少し難しかったようでしたが、みんな手を糊まみれにしながら懸命に作業していきました。一方の大人班も今まで描いてきた複雑なデザインに糊を置くのに悪戦苦闘。手の汚れも気にせず、思ったように出てこない糊の扱いに必死のパッチでした。参加した親子は第3回にして初めて伝統産業の難しさにぶち当たったようでした。完成した下絵には、職人さんが工程ごとに色の名前や確認を書き留める「渋札」（手漉き和紙に柿渋を塗布したもの。染料などに対して耐久性があるので、最終工程まで記録が残る）がつけられ、ほんものの職人さんが扱う生地のようにになりました。（今回は制作者の名前と色名を記入しました）

一週間後の第4回では、今まで作業を共にした班を離れ、本能自治会館で色ごとに集まって新しい班を組みました。そしていよいよ印染工房に移動。色で分けられた班ごとに自らの作品を染め上げていきました。広い工場に集まった全参加者は、

本物の染め職人である土山さんや杉下さん、そして三井さんたちの指導のもと前回糊を置いた作品に刷毛で色を染め、命を吹き込



んでいきました。初めての工場、初めての染料の香り、初めての刷毛に子どもたちの目はキラキラ輝いていたように思います。色ごとに繋げられたたくさんの生地は、長い一筋の布として工場に掛けられていました。黄色、紺色、赤色、青色、茶色、紫色、緑色の全7色に分かれて、どんどん作品が染め上げられていきました。一人で4つの作品を染める欲張りな子ども職人もいて、非常に力の要る作業に少し疲れ気味でしたが無事全ての生地が染め上がり、みんなで本能自治会館に戻ってきました。

全4回と補講も合わせ、最後まで作業を共にした子ども班はワークショップの終わりに少し名残惜しそうでしたが、大人班はすこぶる仲良くなっていたように思います。最後の感想でも「良い体験ができてよかった」「子どもにとって

いい経験になった」などのご意見をいただき、本当に大成功のうちに終わったと思います。白生地から自分のデザインを決め、職人さん同様の伝統産業の技を体験して出来上がるのれんはこの経験は、きっと一生の宝ものになることでしょう。そしてこれからも本能の「染め」が地域住民の誇りとなるような、有意義なワークショップとなりました。これもひとえにご協力して下さった方々のおかげであります。本当にありがとうございました。

(立命館大学乾ゼミ3回生 山崎達哉)



青花とは、露草の一種であるオオボウシバナを指し、道端の露草より一回り大きい花びらをつける。現在は滋賀県草津市の草津川沿いの農家でしか栽培されていない。この花の汁をしばり美濃紙という紙にしみ込ませたものを青花紙といい、友禅の下絵を描く職人さんたちは、これを小さく切って絵皿に落とし、紙に染み込んだ青汁を水で戻して使用する。水で洗うと消えるので、下絵に使用される。昔、下絵はすべてこの天然の青花を使用した。現在使われている青花はほとんど化学製品で、時間がたつと退色する。【参照：草津市青花のHP (<http://www.reves-db.jp/SASAERU/SASAERU-106.html>) の解説】

「親子で染め隊」で制作したのれんは、3月21日に本能館ギャラリー周りや5棟のマンション、高倉小学校に展示されます。皆さん、是非ご覧ください。

鉄ちゃん、鉄子の部屋 第8回本能ものしり講座

2009年12月15日、本能自治会館において第8回本能ものしり講座「本能鉄道物語ー鉄道と京都の近代化ー」が開かれました。講師は、本紙49～51号掲載「本能の歴史雑感」の執筆者で、元本能寺南町にお住まいの高山禮蔵氏です。



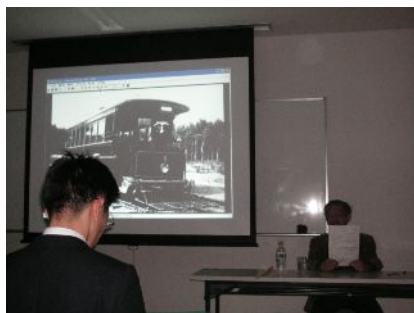
「鉄道」と一口に言っても広範囲で、この講座でも数多くの項目について語っていただきました。その中から、皆さんにお馴染みの京都駅や懐かしい路面電車等についてご紹介します。

★京都の玄関口京都駅は、京阪神間が全通した明治10(1877)年に初代駅舎が開業、煉瓦造りの2階建てで、1本のホームに列車が発着しました。京都ー大阪間の所要時間は1時間40～50分、運賃は3等で40銭。因みに当時は京都(伏見)から大阪へ行く淀川の川舟運賃が10銭でした。その後鉄道網が天津や園部、奈良へと延伸、輸送量も増えていったため、大正3(1914)年に2代目駅を初代駅より南側に新設(=現在の位置)、初代駅跡は広場となり、貨物駅は梅小路に移りました。3代目駅は昭和27年(1952)年、現在のJR京都駅は

平成9(1997)年からの4代目です。

★明治23(1890)年に琵琶湖疎水が完成し蹴上発電所ができた時、京都の財界人から「京都に電車を走らせよう」という声上がり、京都電気鉄道会社(=京電)が設立され、明治28(1895)年、京都駅東洞院踏切南詰ー伏見下油掛間に日本で最初の路面電車が走りました。そして同年岡崎で開催された第4回内国勸業博覧会に合わせ、路線は会場まで延長され、更に西洞院通・四条通・堀川通を経由する北野線が明治37(1904)年に全通しました。当初は堀川三条から三条通を通過して西洞院通を南へ進む計画でしたが、三条通の土地家屋の買収が難しく、四条堀川経由になりました。一方、京都市議会では、道路上に電車を走らせる電気鉄道建設案が明治40(1907)年可決しました。この市電事業により明治45(1912)年6月11日、京都(七条)駅前を中心に烏丸、丸太町、千本及び四条の各線が開業し、四条西洞院に停留所ができました。四条西洞院には民営の京電と京都市電が走っていたこととなります。大正7年(1918)年に市電が京電を買収、一時は日本有数の路線網を誇った京都市電も、その後はバス路線の発達により、昭和47(1972)年に四条通が廃線となりました。〔昭和53(1978)年10月1日に全線廃止〕

★火力発電(石炭)により電力を供給する京都電燈会社が、明治 22(1889)年に高瀬川西岸で営業を開始し、同 25(1892)年には蹴上発電所からの水力発電も加わり、豊富な電力は京都の産業振興に大きく貢献、日本最初の路面電車走行にも繋がりました。その後、京都電燈は嵐山電車の電鉄と電力事業を引き継いだり、洛北に叡山電鉄を敷設するなど、昭和 17(1942)年の電力統制で関西配電(=関西電力の前身)が設立されるまで、電力部門と電鉄部門を幅広く展開しました。西洞院通の蛸薬師と錦小路の間にある現在の関西電力錦変電所は、京都電燈の変電所の1つでした。



★“らんでん”の出発駅・四条大宮駅は、明治 43(1910)年嵐山電車軌道(嵐電)の開通で営業を開始、当時の駅は現在地より 100m 余り西にあり

ました。その後、京都電燈が嵐電を合併しましたが、戦時中の電力統制で京都電燈、京都市電気局は関西配電に統合され、残る電鉄事業嵐電、叡電は昭和 17(1942)年京福電気鉄道として発足し、市電、市バスは戦後「交通局」と改称しました。

鉄道史は、産業・経済・市民生活の発展と深い係わりがあります。講座に来られた方も京都の鉄道に様々な思いを寄せておられました。電鉄会社にお勤めという 30 代の男性は「時代を感じさせてくれる貴重な写真を見せて頂いて、とても嬉しかったです」と話してくださいました。質問コーナーでは、軌道(=レールの幅)、京都駅にある模様の意匠、蒸気機関車の走行に関する事などが出ました。前・鉄道友の会京都支部長という高山氏は質問にも詳しく答えられ、とても 82 歳とは思えない“電車少年”そのままの情熱で、その場にいた人は皆「鉄道ファン」になりました。

鉄道は生活手段に欠かせないものであると同時に、文化を創り、夢と思い出を与えてくれるものです。(ゆ)

第 8 回本能ものしり講座の詳細や高山氏の手描き路線図などを掲載した資料「鉄道と京都の近代化」A4 版 8 ページ をまちづくり委員会で作成しました。ご希望の方にお分けいたします。

【連絡先 ☎ 杉下浩教 ☎221 0613】

開催

本ものに出会える日「おいでやす染のまち本能」

3月21日(春分の日) 午前10時～午後5時
拠点：本能館(油小路蛸薬師下る)

のれんの華スタンプラリー／公開工房ツアー／実演コーナー／染めの体験工房／マイキモノプロデュース(スタンプラリーと工房ツアーの受付は午後3時まで、体験工房は予約制)

※ 詳しくはポスター、市民しんぶん(2月1日号)等をご覧ください

「おいでやす染のまち本能」

ボランティアスタッフ募集!

3月21日(祝・日) 午前9時～午後5時

工房ツアーグループの見守り、油小路通の案全確認、会場整理など

※ 詳しくは回覧をご覧ください

【連絡先 ☎ 杉下浩教 ☎221-0613】

学区情報

被災者であると同時に救助者に 中京区総合防災訓練

12月6日(日)中京区総合防災訓練がおこなわれました。消防団・中京少年消防クラブ・行政職員のほか、6学区から307名の住民が参加。午前9時に地震が発生したと想定し、学区ごとに集合、避難行動から訓練開始となりました。本能学区は各町の自主防災部長、長寿会メンバーで本能公園から高倉小学校へ向かい、6学区の中で最初に到着し避難行動を終えました。全体訓練では、学区ごとに生活拠点設営→本部への避難報告→学区民への情報伝達→応急救護→消火訓練(消火器・バケツリレー)と参加住民がそれぞれの役目に取り組みました。また上空のヘリコプターから地上への無線による被害報告や6学区消防分団合同での放水訓練、並行して給食(炊き出し)訓練もあり大規模な

訓練となりました。

実際の災害時には本能自主防災会長をリーダーとし町内単位で防災部長の指示を受け行動することとなります。倉部防災会長が学区の防災訓練の時に「災害時、目の前で苦しんでいる家族を助けられますか。他人事ではありません」とおっしゃっていましたが、めいめいが被災者でありながら救助者として責任ある行動が要求されることを認識し訓練を終えました。(あ)



救助の緊急性を記すトリアージカードの説明

中京少年消防クラブは中京消防署管内の小学4年、5年生をクラブ員として、防火や救急知識の会得、団体生活の大切さを学び活動しています。

日頃から目配りを 自主防犯パトロール

本能自主防犯委員会の安心安全総力パトロールが去る12月11日(金)「京都府下年末一斉警戒」の日に実施されました。この日は自主防犯委員会、本能消防分団、五条署の警察官が、がっぷり組んで学区内をパトロール。消防団の拍子木にあわせ「火の用心」「泥棒用心」と声かけをし、放置自転車・暗がり注意箇所・歩行要注意場所などを“防



犯委員”“消防団員”“警察官”の三つの視点で確認し、改善の提案がなされました。

五条署藤井交通課長からは事故の3分の1、泥棒の4分の1は自転車がらみであるなどのお話を伺いました。気楽な乗り物ゆえ、もう一度自転車の扱いを考えたいものです。また武内自主防犯委員長から「団体パトロールだけでなく日常生活でも住民個人がパトロール(目配りをするという程度でよい)を心がけたいものです」とまとめの言葉がありました。(あ)

【写真は歩行注意場所の確認】

老若男女が楽しんだ「餅つき交流会」2009

天皇誕生日の12月23日、今年で4回目を迎える本能自治連合会と特別養護老人ホーム共催の「餅つき交流会」が自治会館内の本能ノ辻子で行われました。

前夜から各種団体の方々準備された蒸籠からは湯気が上がっていて、寒さに負けずに朝10時から「餅つき交流会」は始まりました。

搗きあがったお餅は社協・長寿会の皆さんがホールで、手馴れた手つきでまるめてくれます。最初の臼はまず特養の皆様に食べていただき、次に鏡餅を納め、その後は集まった皆さんにふるまわれ、芝生のグラウンドで頂きました。昨年よりは種類が少なくなったとは言え、餡餅に始まり、豆餅、キナ粉餅、おろし餅、焼餅など出来あがり待つようにして味わいました。11時を過ぎると餅つきは順番待ちの子どもたちの出番です。小さめの杵でも重くて狙った場所になかなか下ろせません。でも搗きあがるとうれしそうな顔が皆を楽しませます。2時前には昨年より多めの60kgが搗き終わり、昼前から小雨がぱらついた天気も何とか持って、今年の「餅つき交流会」は盛況裏に終了しました。

また交流会前に、お世話になった宮本前施設長のご退職(本能まちづくりニュース51号に関連記事)を記念しての植樹式が行われ、スタッフ一同が見守る中、グラウンドの北東に河津桜の木が植えられました。



晴れやかに、そして厳かに 本能成人式

2010年1月11日の成人の日に、本能自治連主催の成人式が八坂神社で行われました。昨年までは本能館で成人式を行った後、八坂神社へ向



かい成人祭に参列していたのですが、今年からは八坂神社での式典に一本化されました。参加者(特に女性)の支度時間を少しでも取ってもらうのが理由です。今年度、本能学区で成人式を迎える方々、24名の内、8名の方が綺麗な振袖、ドレス、スーツで身を包み、保護者の方々と共に参加してくれました。午前11時に本殿で雅楽が流れる中、宮司さんが祝詞を奏上され、厳かに成人祭は始まりました。続いて、新成人を代表して永井君と仁科さんが玉串を奉獻され、参列者の表情も一段と引き締ま

ったものとなりました。その後、会場は常盤新殿に移され、平野自治連会長、来賓の和田中京区長、森宮司がお祝いの言葉を下さるのを新成人達は真剣な眼差しで聞いていました。それから新成人は各々、これからの夢、希望等、抱負を熱く語り、そしてこれまでお世話になった親や地域の方々に御礼を述べてくれました。

二十歳という人生の節目を大勢の人たちに祝ってもらった彼らはこの日を忘れることなく、大人の自覚を持って自分の進む道をまっすぐに歩んでくれるでしょう。(ひ)

本能まちづくり委員会 新メンバー募集!

~多くの方と新しいまちづくり活動を目指しています~

参加・見学 大歓迎!

定例会 3月2日(火)、4月13日(火) 午後7時~、
本能自治会館1階会議室

委員会は知っているけど参加しにくかった、引っ越してきたので地域のこともっと知りたい、という方、お気軽にお越しください。お待ちしております。当日の飛び入り大歓迎です。

ひりこ ◎年が明け、乾ゼミは丸ごとシンポジウムでてんてこまいです。精一杯頑張ります! お楽しみに!(山崎達哉) ◎60kgの餅米をいかに手順よく美味しいお餅にするか、生活の知恵満載の餅つき交流会でした。(N村) ◎嵐電開通100周年のテレビニュースに、“にわか鉄子”は即反応。(ゆ)